

**花巻市東和地域協議会**  
平成26年度第3回会議記録

日 時	平成27年2月24日(火) 10:00~11:30							
場 所	東和コミュニティセンター 会議室							
委 員	役 職	氏 名	出席	欠席	役 職	氏 名	出席	欠席
	委 員	下林 育男	○		委 員	熊谷 惠	○	
	委 員	鎌田 榮一		○	委 員	多田 保子		○
	会 長	小原 宏	○		委 員	大久保 浩二		○
	委 員	伊藤 功	○		副会長	松葉 孝博	○	
	委 員	吉田 英雄	○		委 員	渡部 久美子		○
	委 員	小原 順	○		委 員	柳谷 励子	○	
	委 員	小川 洋征	○		委 員	平野 悠広	○	
	委 員	下坂 淳代		○				
出席職員	総合政策部 秘書政策課 課長 藤田哲司、企画調整係長 寺林和弘 東和総合支所 支所長 佐々木力弥 地域振興課 課長 菅谷一雄 地域振興課 課長補佐 照井美智彦、上席主任 新田正幸 市民サービス課 課長 川村勝夫 地域支援室 地域支援監 青木力三							
傍 聴 者	0名							

司会：地域振興課 課長補佐 照井

**1 開会 (司会)**

**2 あいさつ (小原宏会長)**

**3 議題**

**(1) 「人口減少対策に係る中間報告」について**

●（議長）小原宏会長

それでは、さっそく議題に入りたいと思います。人口減少対策に係る中間報告について、これを議題とさせていただきます。

（始めに、前回説明した、人口減少対策に係る中間報告について、平成27年度に向けた施策の見通しについて、秘書政策課長、東和総合支所長から、補足説明）

●（議長）小原宏会長

60ページですね、市外在住者というところがありまして、勤務先が花巻市である市外在住者は7,197人であると。これはどういうことなのでしょう。

●秘書政策課 寺林係長

お住まいが、市外に住所を持っていて、花巻に通勤している。なのでそういう方を花巻に住んでくれたらなということです。ターゲットの1つとして考えた。

●（議長）小原宏会長

非常に人数が多いので、7千人以上となりますという、空き家対策としても、住宅とかがあれば、花巻とか東和町でも来る人もいるのかなと、いうことも考えられるわけですが。これらのことについてもターゲットとしてやっていくんだ、とこういうことですね。

●東和総合支所 佐々木支所長

結構、問い合わせはあるんです。支所には来ます。ただまだ制度が出発していませんので、ちょっと待ってちょうだいと。情報もまだ決まっていないのに流すのは、なかなかできないところもありますので、お金の面も絡みますので。空き家、これはできるだけ早く埋めたいと思っています。そして次のステップに進めたい。人は結構、ロコミですか、ということで来ます。町中に住みたいって人が来るんですよ。昔とちょっと変わってきたかなって感じも持っています。ただやっぱりこちら側として若い人、子どもさんがいる方であれば本当に良いなという感じも持っていますが、でも今はやっぱり団塊の世代の人も問い合わせ来ています。

●（議長）小原宏会長

働く場所が無いというのもこの中に、非常にデータとして1番の理由にうたっているようですね。やはりその辺あたりからも、良い案が無いのかなと、その辺あたりにも何か具体的なことがもし考えられるのであればお願いできればなど。

●秘書政策課 寺林係長

先ほど課長の説明から漏れていた部分があるんですけども、ワーキンググループで考えたんですよ。66ページ雇用対策ということで、このうちですね、1つ目はジョブカフェはなまき支援強化ということで、まずここはスタッフを1人増やして、雇用、就職の支援、就活の支援を強化していくのと、2つ目ですね、既卒者等就業奨励金とあるんですが、これちょっと①、②、③とあるんですが、来年度は③のU・I・Jターン者をターゲットにしてそういった方を採用した事業所に補助金を出そうということで。あとは4つ目は役所の方で予算を使わずにやるものですし、5つ目のところは、ちょっと事業は変わりましたが、企業の方に頑張っていたきたいということで、ワークバランス、仕事と家庭、子育て両立するためのセミナーというようなことにしようと、事業所の方でやりたいなと考えています。ハードの部分もありますし、雇用環境のソフトの部分もございまして、時間かかるかもしれませんが、そういった支援を考えています。あとは2番目にいきまして企業誘致、67ページなんですけども、空き店舗活用などを支援していくことは、ここまだ具体的には決まっていますが、民間の方の力を借りてですね、空き地とか店舗とかをどういうふうに活用していくか、リノベーションというふうに言ってるんですけど、そういったことを検討し始めているところですので、もうちょっとそこは時間がかかると思いますが、そういったところを考えています。

まだまだ足りない部分はあると思うんですが、まずは来年度やるつもりで用意しています。

●下林育男委員

藤田課長さんの説明の中に地域おこし協力隊というのがありましたが、活動内容とか。それと東和地区には2名、各地区には1名、何で東和には2名なのかクエスチョンだったんですが。

●秘書政策課 藤田課長

これを始める時に支所の皆さんに集まってもらって、こういう制度が国であるよと、交付税で支援していただいて、各地域に住まいして地域のために稼んでもらえる人を雇えるよということを話したら、東和は何たって2人欲しいと言ったわけです。こちらの支所からの提案でしたので、そのまま予算を作ってですね、2人分は。概略で申し上げますと、1人は農業関係の人で、1人は町中の商業関係、ということなんですけど、私の望みはですね、東和に2人で東和のことばかりやれ、あとは大迫は知らない、とかではなくて、定期的にこういう人たち、ほかから来て活動する人たちの、その人たちのネットワークも欲しいと思うんですよ。同じ花巻市で採用しますから、会合を定期的にその人たちがやってもらいながら、東和でこういうことやっているよ、大迫でこんなことやっているよ、っていうのも1つの力になりつつ、5人で花巻全体を元気を出していくような仕事していただきたいなと思ってました。

●下林育男委員

活動の内容をもう少し何か。

●東和総合支所 佐々木支所長

地域おこし協力隊、地域おこしということで活動しているんですけども、目的は定住促進です。定住促進を進めるために地域おこしをしていただきましょう、ということになります。東和で2人欲しいって言ったのはですね、農業の関係は経験あります。そういうことで農業はまずはいけるだろう。しかしながら、町中、かなり力が落ちてます。土沢、アートの町ということで、特色を持った発信をしていますので、それはなんとか生かしていこうと。町中を構築していくための協力隊が是非とも欲しい。コーディネートまでできるかどうかわかりませんが、欲しいなということが、1番の目的でした。町中ってというのはなかなか難しいです。商店街これ以上増やすというのは厳しいだろうというのはありますけれども、だけどもやっぱりある程度生活しやすい、町場の形成をしていかなければならないということで、それをほかの人の目から見ていただくことが重要だろうと。ということで、目的はあくまでも定住促進、ということで、特色を生かした、アートの町を生かした土沢の商店街づくり、町づくりを進めながら、地域おこし協力隊に活動していただこうと。最終的にはこの方も定住していただく、そして、活動していただきながら定住促進をしていただく。2本立てで、農村版と町づくり版でなんとかいきたいということで、お願いしてきた経緯があります。

●秘書政策課 藤田課長

今、募集要項を作り始めていました。来る人に、こういうことをしてくれないか、というのをまずお示しするものを作っていました。その来る人の数年間を奪うことにも実はなりますので、きちんと示してですね、あなたの仕事はこうですよ、そういうことで手を挙げてここに来て、東和で数年間、東和にかけていただけませんか、というような資料を今作っていました。

募集する時にですね、こういう仕事をやる人を来て欲しいというのをきちんと書いて、来てから決めるとなると、その人が合わなくなると、その人の一生のうちの何年間を棒に振らせるので、きちんとこういうことで手を挙げて、花巻にあるいは東和に来て欲しいということで作っているところです。我々で作って、専門家の人にも見てもらって、我々の思いがちゃんと伝わるようなことを。この辺のハローワークではだめのようなので、東京とか首都圏のそういうところに行って、宣伝会、PR会をして、募集をしよう。すぐすぐ4月から東和に来るということではありません。市長の希望では6月から、一応、夏場から地域に入るようにいい人を選ぶように進めていきますから。

●東和総合支所 佐々木支所長

3年間ですので、長丁場ですので、まず1年目は地域に飛び込むという活動になると思います。農業関係であれば、新規就農者の方々に訪問したり、教わったり、色んな部会ありますので、法人もあ

りますので、そういったところで、まずは研修というか自分で勉強、情報収集、そして仲良くなると。商業関係も同じようなパターン。まずは1年目はそういった。2年目からは、様子見ながらですけども、実践というような話になっていくんでしょう。

●小川洋征委員

聞いたところによると、花巻市ではふるさと創生事業を政策提案して補正事業をやるということ聞いたんですが、それについて具体的な話がまとまっているのか、これからなのか。

●秘書政策課 藤田課長

12月の下旬に国の大きな総合戦略というのが出されて、地方、県庁さんとか市役所なんですけど、27年度内に花巻市総合戦略を作れ、ということになっています。提案するのは、これから我々も考えて皆さんのご意見をまた伺いながら、総合戦略を作っていきますが、その時期は、27年度の秋頃、それ以降になります。時期的には。県庁さんも総合戦略を今作るということになっています、その総合戦略はやっぱり秋以降だと仰っていますので、(仮称)花巻市総合戦略とか、作るのはもうすぐ4月から始めますが、皆さんに一端を素案で報告できる時期は、秋以降になります。今、小川さんから、花巻市が国に対して立候補してそれに対してどうだかというお話なんですけど、1月の予算を見たら、今、2つに分けて、地方創生の予算は27年度の当初予算ではなくて、26年度の国の補正予算に載ることになってですね、それは、たまたま花巻は進んで人口減少の取り組みをワーキンググループで案を作って予算に上げるところまで実は来ていましたので、ほとんどがこの国の事業に乗って前倒しで、26年度の補正予算、やるのは27年度なんですけど、国の予算が花巻市に1億ちょっと来るという時に、そのメニューのうちで考えていた人口減少の取り組みのほとんどが対象となりましたので、まだ精査中ですが、うちが早かったから、そっくりそのまま国の事業が入れるという。今のところはそういうことで、議会にも説明して、交付金、国から来る1億の交付金をここに入れるようにということで、やっています。それから新聞に取り上げられたんですけど、やる気のあるところには全国で300億円を出すよというものにも早速申請をして、ただ、その答えが、4月か5月にしか来ないようですが。新しく照会が来たからその時に慌てて作るのではなくて、もう既にありましたので、この中から選んで、出したと。今のところは1月に発表された国の流れとしては、前倒しして人口減少とか地方創生にかかる分について花巻に1億円という部分はもう手挙げしておりますし、それからやる気のあるところに来るよ、という全国300億円の分についても、もう出してあるのはこちらから今のところあります。そしてその後すぐ、国で定めている総合戦略というのを、花巻市総合戦略を作るのも、この中間報告したこれを進化、作り替えながら、花巻市総合戦略っていうことにこれから作り替えていく、というように今、考えていました。

●秘書政策課 寺林係長

補足説明させていただきますと、地域と仕事創生の、人口ビジョンと総合戦略と2つ作らなければならぬんですが、人口ビジョンが50年後の姿を出すものです。総合戦略は27年度から5年間の計画を示すものです。5年間のやつは、今回の3月の補正予算で1億来たので取り組むんですが、2年目以降、28年度以降については新しい交付金という形で来る予定なんですけど、いくらぐらいかとか詳細はまだ決まっていないところです。総合戦略の方の5年間については、色々事業は出しましたけれども、目標値を決めて、たとえば雇用の人数、何万人に増やしましょうとか、移住者を何百人に増やしましょうとか、目標値を掲げて、それに向かって事業、何をしたら良いかというのを検討するというのが総合戦略です。人口ビジョンの方はちょっと難しくてですね。50年後の人口というのをどう見るとかというのが、非常に国でも県でも難しいということで、国の方ではとりあえず2020年くらいまでに国民の希望の出生率を実現してあげたいというのがあるんですが、それが出生率1.8。人口維持するためには2.0からと言われてますので、花巻は1.4くらいしかありませんので、じゃあそれができるのかと。国ではですね、人の生き方なので、子どもが何人持とうが、結婚するしないは、個人の自由なので、そこは強制できないというのが、国でも結局目標として出せなかったとこです。こういった場合にはこうなりますよというのしか国では出せなかったんで、そこら辺、県の方でもどうしようにするか決まっていますし、当然、市の方でも増やすかということで2.0人にしようとして実現不可能な数字を出してですね、何とか10万人9万人ぐらいで維持しようというのが、それで良いのかというのがあるので、なかなかそこはデリケートなところかなというのは、事務方としては思っていますので、そういったことは皆さんから意見をお聞きしながら、50年後のあるべき姿という、人口減少をある程度受け入れなければならないと思いますけれども、そういった中でどういった数字が良いのかというのを皆さんから伺えたらと思っています。あわせて、こうやってまわっていてですね、若い人の意見がわからない。子育て結婚ですし、1回外に出て行った人が戻る気があるのかとか、何で外に行くんだというような、そういった意識がわからないなど。こういった説明会行っても若い人は全く出てきていないので、そういったところはアンケート調査しなければならないかなとは考えています。なので、今、中間報告ということで示したデータありますけど、まだまだ足りないところがあると思いますので、そういった調査はやっていきたいなと思っていました。

#### ●平野悠広委員

31ページですね、岩手県の年齢別社会増減数というところで、18で一気に減る。ここで減るのはおそらく大学とか専門学校に行くということで、納得するんですけど、その後に、22歳のところで、また女性の方がガクンと減る。男性はそんなに減らないんですけど、女性がすごく減るところがすごく気になってまして、女性の働く場所というところに創出が必要なんじゃないかなと思っていて。工業団地とか女性が働くのかなと疑問ではあるんですけど、女性が働けるようなところですか、フェイスブックちょっと見たんですけど、成人式の実行委員会というので、結構な人数の方

が活躍されてて、楽しそうな感じでやっていたので、ああいう人たちが1回20歳の時に帰って来て、地元のことを考えて、帰ろうと思えるようなところで、大学とか18～22の人たちをターゲットにした施策とか、そういった人たちが将来を見えるような。意見、アンケートを見たいというところがあります。

●秘書政策課 寺林係長

やはり女性の働き口が少ないというのがこれを見てわかります。仰ったとおり製造業にあまり女性の方はいません。例でいえば金ヶ崎なんかは非常に若い人が多いんですけど、未婚率が高い。というのは女性がいないです。金ヶ崎の男性の職場はあるんですが、女性の職場は無いんで未婚率が高い。なので子どもが増えないというのがあって、やはり女性の働き口をどうするか。女性の働き口はどちらかというとサービス業が多いです。まちがそれなりに成熟している都市、都会に行ってしまうんです。北海道なんかも、札幌というまちがありますが、北海道の若い人たちは札幌に集まっているのかと思うんですけど、実は、男性だけが集まって、女性は札幌を乗り越して東京まで行っている。そのくらい女性の職場が無い、魅力の無い、地方都市でもそういうようになっているということで、これは花巻だけじゃなくて全国的な傾向で、東京一極集中というので、皆さん女性が集まって来ていると。非常に難しいところではあるんですが、女性がどうやって戻ってくるかというのをやっぱり考えないとならない。資料にもあるんですけど、この産む女性そのものの人数が30年前の半分ぐらいになっていますので、どうやっても人は増えないなというのがございます。あと、ハローワークさんから聞くと、嬉しいことなんですけど、高卒者の就職希望、市内の就職希望の方が非常に多いらしいです。職場さえあれば花巻に残りたいという方が、県内では花巻が一番高い。8割以上の方はぜひ花巻の方に残りたい。だけど、職場がないんだよな、というのがあるので。そこは良いところなのかなと思っていますので、そういう受け皿は作らなければならないですし、最近わかったんですけども、国勢調査の前回と前々回の社会増減を見ますと、花巻の若い15歳以下の子どもの転入が、前回と前々回の国勢調査を比べるとプラスになってまして。県南エリアでは花巻だけがプラス。ということは、子どもたちをつれて戻って来ているのかなということが、花巻は多いのかなと。花巻に帰って来たい人が、機会があれば帰って来たい人が結構いるのかなという気はしているので、やっぱり1回出ていっても良いんですけど、戻って来るための、そこは考えないとならない、と思っています。まだ見えていないところもあるので、ちょっと分析したいなと思います。

●秘書政策課 藤田課長

今の平野さんの視点、非常に大事です。31ページの表ですね、本当にこれを見ると、悔しくなるんです。ただ、こういうところを深く下げて調査して、花巻としては、そういう意向がどうなのかということ、これから乗せるために色々調べていきたいと思います。そうしていくと何かまた出てくるかも。

この間、ショッキングだったのは、北上にセブンイレブン工場ができるんです。採用募集しても集まらない。それだけ北上もキツキツになっているのか、いや、条件が悪いのかもしれませんが、それを見て、反対の、企業が来ても応募が無いという。こんなの嬉しい話なんですけどもそうは言っても軒並み人が採れないということが実際出てきているようなので、花巻としては、まだ紫波とかそちらの方の吸収力もありますので、うちはうちで考えて。あるいはここから行く人もあるのかもしれませんが、女性が働ける職場というのが考えていかなければなど。

#### ●松葉孝博副会長

まずは、東和に地域おこし協力隊というの良いなと。ぜひ早くやってもらいたい。東和に2人ということなので、すごく良いなと思っていますし、期待できるなという感じもして。大元は定住促進ということなので、やっぱり人の部分なんだろうなと思って聞いてました。あと、子どもを産まないのなのか、結婚しないのなのか、働くところがないから都会に行くのなのか、子育て支援が少ないから子どもが少ないのか、というのが、全部ぐるっと回って結局同じところに行き着くことではあるんでしょうが。さっき例えば2人ぐらい産むというのでも、国とか県とかと違って、例えば花巻はじゃあ1人目は男の子だったら2人目は女の子が欲しいよねというキャンペーンじゃないけども、1人目が女の子だったら次は男の子が欲しいよね、というような感じにすると、自然と、2人産めじゃない、2人を産む誘導になるとか。生まれたからには、結婚したり、先祖から伝わっている土地とかを守るために、長男じゃなくてもですね、こう何か当たり前のところに自然に訴えかけて、だったらやっぱり結婚して、子どもも作って育ててみたいじゃないですか、というような感じで。私は何か単純なことをこう普通にしていくことを、若い人たちに自然にPRできると良いんじゃないかなと。うまく言えないですけどそういうことを地域おこしを使いながら、なんか花巻はちがうな、花巻に行って子育てしたいなという感じになると、もっと盛り上がるのかなと。期待しております。

#### ●秘書政策課 藤田課長

ちょっと見て、色んな話を拾うとですね、行きたいんだけど、どっかに移住したいんだけど情報がまるっきり少ないんだよねという声がありました。お出でになった時に縁故がもし無ければ、その地域に行くのが大変な労力だと。そういうことを地域おこし協力隊が発信していくこともあるし、我々の方もホームページを別に移住したい人のページのようなものを作って、これから考えていきますが、とにかくそういう情報が少ないんだということに、この仕事やって気づきました。来れば良いじゃないかという考え方をして、来た人にお知らせしようと思ったら、その前のところが無いんですね。それが、花巻市の今の市町村のやる気のところなんだなと思いました。本当に来て欲しいならばそういうPRが、情報がどんどん前にやって、そこで来た人にこっちの支援がいつ、ゲットみたいにすれば良いんでしょうけど、その前状態がないということがわかってきましたので、それを進めます。

●秘書政策課 寺林係長

ちょっと、情報を外に対するアピールは不足していたなと思っていますので、ホームページを作って、移住してきた方の生の声を上げていきたいなと考えています。来て良かったな、住んで良かったなという、生の声を知りたいというのが1番ですので、そこは必要ですし、地域おこし協力隊については、他の自治体にはホームページに募集してますとやって、ふるさと回帰とかのホームページとリンクを張ってやっているのがあるんですが、うちの方ではコンサルを頼んで、岩手県とつながりのあるNPOも東京にありますので、そういったところに出して、うちから、役所の職員になりますけど、4ヶ所プレゼンをして、移住希望者の前でプレゼンをして、説明した後に、1度花巻に来てもらって、現場を見た上で、本当に来たいのであれば面接をして、といった流れで考えていましたので、その時人が来てくれれば良いんですが、その辺をやりたいなと思っています。あと子どもの方なんですけど、ワーキングの中でも話しているんですが、2人目3人目を産むことより、やっぱり1人目じゃない、というのがあってですね、1人目の時に手がかからない、何もつらいことがなければ、もう1人、2人目3人目いこうというようになるんじゃないかなと。それが自然だと思うんです。無理して2人目3人目、1人目つらかったのに2人目3人目を産むんじゃないなくて、やっぱり産んで良かったな、次考えよう、という方向に持っていかなければならないのじゃないかなと、ワーキングの中でも1部に出て来ていますので、そこは考えていかなければ無いのだろうなと思っています。あとは、高齢出産とか、知識が無いんですよ。自然に産もうというというのが、いつでも産めるよという感覚になっているので、ここ最近になって、35歳超えるとリスク高いですよとか、男性もそうなんですけど、そういった知識が先進国のなかでは日本は1番低い。そういった教育も必要ではないかというように、国でも言っているのです。そういった教育は必要かなと感じています。

●柳谷励子委員

私、先日、山下祐介さん、地方消滅の罌という本を書かれた方の講演会に行ってきたんですけども、増田元知事が地方消滅というのを書いて、それに罌があるというか、それじゃないんじゃないかということを書かれた方で。非常に面白いなと思って。今までの価値観だけじゃないというか、今までの価値観から転換していかないと、だめだということ盛んに仰っていて、具体的にどういうふうにとというのは、ぱっとは言えないんですけど、ただその中で面白いなと思ったのは、ワークショップをやっていくことがすごく面白い、当事者意識を持つ人を増やしていく、この花巻市の問題が市役所の方たちが一生懸命取り組んでくださっているというのを、なかなか普通に暮らしている私たちが一緒に考えるというのはできないので、それをワークショップ、特に若い人たちのワークショップをやっていったら良いんじゃないかなと考えながら聞いて、当事者意識を、東和町をこういうふうにしたいんだ、こういうふうにしたら自分たちは暮らしていきたいし、1回は外へ勉強に出てっても、いずれこういう地方で暮らしたいという子どもを育てたいというような趣旨で、そういうことができないかな

という思いがしてました。

●（議長）小原宏会長

結婚支援ということについてですが、結婚支援の方については何かしら具体的な動きはあるんでしょうか。

●秘書政策課 寺林係長

結婚支援の方は、地域おこし協力隊の方では考えていないんですけど、おせっかいさんありますので、こちらの力を借りて、こちらを支援していきましょうというのが1つです。あと、県内の自治体とお話しているとですね、婚活イベントなんかは、みんな同じ人しか来なくて良くないなというのがあって、連携してやれないかなという話もあったんですけど、岩手県の方で来年度、結婚相談所を県内2ヶ所になるんですけど、盛岡と沿岸で1ヶ所ずつ設置するというので、市からも組織負担金を出しますが、こちらの方でまずやると。何年か前から各自治体でぜひ県の方で設置してくれと要望はしてたんですが、今回2ヶ所ということ。先進的などこでは自治体の方で県内何ヶ所か作っているんですね。去年3月に茨城県行ってきたんですが、すでに1,000組以上結婚しているよというような県もありましたので、そちらの方は期待しています。あとは先ほど言ったとおり連携して、できるかなというところはこれからまた考えていきます。

●（議長）小原宏会長

さっきの話、実はテレビで見たんですよ。自分の息子、娘、抱えているんだけど、なかなか結婚しないと。その婚活だけでも、親が出て行って、親同士が話をしている、親同士を先にくっつけるという活動してました。というのをテレビでやってまして、なるほどなと。結婚しない理由の中に、適当な相手が見つからないと、場所が無いということがいっぱいあるということで、全国的な話なんだということでしたけども、だったら、親を集めると、親を集めてお話をしていくと、というようなことをやっている。色んなやり方があるものだなということで、さっき聞きました。というのは私の周りでもそうなんです、いっぱい独身の男性がいます。どうするのかなと思うくらいいっぱいいるんです。そうすると子どもができるはずもないんですよ。かたや女性を見つけるというと、独身の女性はおりません。やっぱり若い女性もいるようなことでないと、若い男性は家にいなければならなくている人もいっぱいいるわけだから、その人たちを結婚させるにはどうしたらいいかということも考えていくと、ということだろうなと思います。

●下林育男委員

当集落もなんです、コミュニティ会議27の会長さんたちと集まって、お互いに交流して、あんまり極端じゃないですけども、情報交換をして。そこまで支援しないと、なかなか。当コミュニティ

管内だけではそのとおりですよ。当方でもお嫁さん候補いるかなと考えてみると、なかなかいないんですよ。男はいます。独身男性はね。女性が独立して自分でお仕事持ってますね、晩婚化というのはなぜかと考えると、職場に就くとすぐやめたくないとかですね、結婚するとやはりですね、身ごもって子育てとなると、ということから、子育て支援、婚活支援、かなりこれは本腰を入れてやらないと、人口減少、かなり考えるべきことかなということで、コミュニティあげて取り組む事案も良いんじゃないかなと。もう1地域じゃなく花巻全体の問題だということで、広く考える時期に来たんじゃないかな。ここに集まった人だけじゃなく、底辺を広げてそういう取り組みが必要じゃないかなと思っていますが。

●（議長）小原宏会長

ここで住まいの人たちが、だんだんにいなくなるということになっては、空き家だけ増えていくような状態ではやっぱりだめでしょうから、40、50でも来たい人たちが来てくれたらと思っておりますので、こっちの方にも少し力を入れていただけたらありがたいのかなと思いますが。

●東和総合支所 佐々木支所長

1番重要な問題ですよ。皆さん結婚して子ども産んでくれればね、ほかの人に来てちょうだいと言わなくても良いんですよ。でもそれは現状的に無理なので。本当深い問題だと思います。昔に戻って来たという話をしましたが、そういうことも振り返って検討していくことが大事なのかなと感じますね。町中みてもみんな独身ばかりで、飲み屋さんについても若い人はほとんど飲んでいないんです。みんな年寄りばかり。昔は違いますよ。若い人ばかりだったのに、中年と老人倶楽部の集まりが飲み屋に行っているという。時代の流れですけれども。いろんな条件はあるんでしょうけど、1番根幹の問題なんで良い案があったら出して欲しい。なかなか難しいですよ。

●（議長）小原宏会長

昔、先日も話に出た、結婚支援、仲人の方があって、私の集落にもおりましたけれども。

●東和総合支所 佐々木支所長

例えば仲人さんに謝礼で30万払っても安いんですよ。もっと払っても良いんですよ、くっつけてもらえば。昔みたいに仲人さん、各地域にいて、お世話したい人、その人が嫌われながらも積極的にやってきた方々、いれば本当良いんだけど、今、誰もいないですよ。結構いっぱいいたんですよ。そういう人、やっぱり貴重になって。でもそういう人って年間何組も世話してましたよね。すごい数。今できるかどうかは別な話になりますが。やっぱりこれは皆さんで真剣に考えてもらわないと、日本全国、同じ話ですからね。日本は特に出生率低いですから、何かあるんだなと。

●秘書政策課 藤田課長

その話題は本当に真剣に担当する課と議論したんですけど、一関だったかな、県南の方でそれをやっているところがあるんですけど、実績が上がらなくて今は。やり方としては、市内に何十人か委託料だか、謝礼金だかでまずなってもらって、成功したらば成功謝礼を払えばなど、そういうことで考えたんですけど、まずなる人がないし、成功したらってなかなかなかったらどうするっていうことがあって、継続審議になっています。すぐ今年予算でやれるような、データ、情報が無かったんですよ。先にやっているところですから、ちょっと見直しをするようでしたから。なにか考えていかなければない。

●小原順委員

私的には、子育てに関して、かなり細部にわたって支援しているのがありまして、それはそれで良いんですけども、それはあくまで生まれてきた人たちに対する手厚いケアだと思いますけれども、1.4を1.8、あるいは2.0以上にするというのは、やっぱり子どもを産める、産む環境が整っていないんじゃないかなと思います。1人目はできた、それは一生懸命頑張ったけれども、財源も伴うことは当然ありますけれども、大ナタ振って2人目以降は保育料ゼロ、医療費もゼロ、24時間体制の保育所があるというような形で、花巻に行けば子育てはすごく魅力的で安心して仕事に就けるというような環境を整えてあげないと、なかなか夫婦の考えが固まらないんじゃないかなと思います。そういった情報化時代ですので、非常に安心して子供を産める条件がそろっている、1人目はなんとか頑張るけれども2人目以降はもう面倒見てくれるというような体制があれば、本当に魅力的で逆に入ってくるんじゃないかなと思います。まあ夢物語ではあるんですけども、今、3人目のお子さんは保育料安くということはあるんですが、せめて安くじゃなくゼロにする形、さらに1歩進めて2番目以降も安くからゼロにするというようなそういった形で、大ナタ振っていただいても良いかな、まあ夢物語とっておりました。

●（議長）小原宏会長

それではですね、このまだお話ししたい方もあろうかと思いますが、人口減少対策ということにつきましては今、始まったばかりなわけでございますが、まだまだ続くだろうと思います。1年や2年で片付くものではないと思います。今日の会議はこれで終わったとしても、まだまだこの議題に乗っていけるといいますので、皆さんで、どのようにしたらということにつきましては、次も考えていただくということをお願いを申し上げたいなと思います。これで閉めますが、藤田課長さんから最後に何かありましたら。

●秘書政策課 藤田課長

私たちは、これから人口減少対策本部かと思ったら、総合戦略、地方創生本部になって、人口減少

から地方を元気にする計画書を作ることになるので、プラスアルファの部分が加わりますが、この人口減少の中間報告をたたき台として、これを花巻市の戦略として今年作っていきます。その時点においてはこういう貴重な皆さんのご意見をお伺いすることになろうかと思いますが、そういう時にまた、色々ご相談申し上げますので、ぜひ貴重なご意見を出していただきたいと思います。呼んでいただければいつでも参りますし、その時には勉強なさる時にはぜひ呼んでいただければ、これに関しては飛んで参りますので、よろしくをお願いします。

●（議長）小原宏会長

ありがとうございました。

今回のことについては、結論が出るとか要望書出すとかいたしませんので、よろしくお願ひしたいと思います。

それではこれで閉めたいと思います。これで議題につきましては終了とさせていただきます。

**4 その他**

無し

**5 閉会**